

島間向方の島間小学校から豊受神社一帯の地形を利用し、標高約 75 ～ 110m に立地する山城です。現存するのは土塁（土塀）と堀切で、下城・内城・犬の馬場・殿川・仮屋・水上・おみ園などの地名が残っています。水上城・仮屋・内城の 3 つの曲輪（周囲に土や石の囲いを設けた平地）が東西に連なっていて、さらに外城・殿川・桜園など合わせて 6 つの曲輪群で構成された山城と考えられています。

上妻城に関する記録は残されていません。種子島家譜では肥後信基が北条時政から種子島・屋久島など南島 12 島を与えられた時、種子島の地頭は大浦口氏で代官が上妻氏であったとされています。言い伝えではその代官だった上妻氏の居城だといわれていますが、島内には上妻氏居城跡という場所がほかにもいくつかあります。また他に、その築城の始まりを奈良時代の多禰国府・国府津城（こうづじょう）とする説もあります。



上妻城址の縄張図（山本正昭氏作図）

中世以後も上妻城は島間の湊を治める拠点として、また種子島氏の滞在所の一つとして機能したと考えられます。

上妻城の特徴はその規模の大きさにあり、大隅諸島最大です。また、自然地形を利用し、堀切が深く、各曲輪の独立性が強い南九州地域に見られる中世城郭に類似しています。



堀 切